

Harielle (25)

出身地: アメリカ ミネソタ州 サベージ

職業: デザイナー

Instagram: @HARIELLE_ATANALINDOR

TikTok: @LINDORCAOCO

<Profile>

ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションでファッション・スポーツウェアの学士号を取得し、ロイヤル・カレッジ・オブ・アーツを卒業した後デザイナーとして活動中。メンズウェアを専門とし、共同の手法を通じて自分の研究を再解釈することに重点を置く。最近ではハイチの金属職人であるセルジュ・ジョリモーとロニー・ジャックと共に作品を製作。また、サウンドアーティストのDechieがコレクション、彫刻、音楽で構成された彼女の最新の作品『Who Killed Haiti?』に協力。

<クレジット> <https://2023.rca.ac.uk/events/fashion-who-killed-haiti-harielle-atana-lindor/>

shirt: 自分でプリントしたもの / PRINT BUTTON UP BY ME

t-shirt: COLD のバンドグッズ / COLD'S MARCH

pants: WEEKDAY

rings on left hand: PANI JEWELLERY, LOUVRE SHOP RING

rings on right hand: ETSY, PANI JEWELLERY, ANTIQUE SHOP

silver bracelet: ACNE STUDIOS

gold bracelet: COSTCO

necklace: COSTCO

silver hoop earring: COSTCO

diamond stud earring: COSTCO

glasses: ACE & TATE

socks: DOUBLE SOUL X VERONIK

sneakers: ADIDAS

①

最近映画館によく行って、25歳以下は割引が効くので出来る限りそれを利用したい。あとボードゲームにも夢中で“スクランブル”というゲームにハマってる。もし私のことを知っていたら私がそのゲームに夢中なのを知っているはず。

②

初めは静かに感じるかもしれないけど、一度仲良くなったらめちゃくちゃうるさくて大笑いする子だってわかるかも。それから、細かく計画したがわりって言われるけど、私はスプレッドシートが大好きなの。どうしようもできないよね。

③

ロンドン芸術大学 (ネット99出)

↑ (Royal Colledge of Art)

別

?

トル?

未カワ

プリント表記不要?

日本語に?

トル? VINTAGE (VINTAGEと同じ扱いに?)

写真不明

カケル

片耳ずつならマ

利 21%

トル?

完璧なリストを作ったよ。“スマート”なドレスを着ること、頻繁に映画を観に行く、ネイルやスキンケアなどのセルフケア、散歩、サイクリング、部屋のリフォーム、本を読むこと、2本以上のベルトをゲットする、楽しい靴下、小旅行、短く充実したセルフプロジェクト、少しリップを塗ること、結婚、ミュージカルを観ること



④

私のワードローブは快適さ重視で、バギーパンツに、大きめのシャツを合わせるのが定番。今日着ているアイテムは誰かとつながるためかつ、よりパーソナルになるようにカスタマイズしている。

⑤

ヘアはいつもブレイズにしている、今日のメイクはすごくナチュラル。もう過度なメイクはしたくないの。軽めのファンデーションに少しチークをブレンドしただけ。楽しいチークさえあればそれだけで気分は最高。

⑥

Ⓣ (公式、Spotify)

インディーズやオルタナティブ R&B をよく聴いてる。今好きなアーティストは Mk.gee (マッギー)、Destin Conrad (デスティン・コンラッド)、Men I Trust (メン・アイ・トラスト)、King Krule (キング・クルール)、The Japanese House (ザ・ジャパニーズ・ハウス)。

KR

⑦

正直わからないかな。アパレルブランドを持って複数のアーティストたちと一緒に仕事をするのが私の夢。より大きなスケールで様々なバックグラウンドを持つアーティストたちと一緒に仕事をしていきたい。

⑧

メンズウェアのデザイナーをしている。ロイヤル・カレッジ・オブ・アートを卒業して、今は自分のプロジェクトに取り組んでいるよ。また、様々なプロジェクトで多様な分野のアーティストたちと一緒に仕事をしています。

⑨

実はこのインタビューを受け取った時に誕生日にオーダーしたランプがついに到着したの！

⑩

いつも家族にはとっても感謝しています。すごく決まり文句みたいだけど、彼らなしでは何もできなかったと思う。私がいる業界はとっても競争率が激しくて、時には参入するのも難しいような仕事だけど、全面的にサポートしてくれる。私がすることは彼らに「ありがとう」と言うこと。